



“往来”と“all right”

—都市と農山漁村の共生・対流表彰事業—

第  
16  
回

# オーライ!ニッポン大賞



主催：オーライ!ニッポン会議（都市と農山漁村の共生・対流推進会議）

協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

後援：総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、  
一般社団法人日本経済団体連合会、全国知事会、全国市長会、全国町村会

「オーライ!ニッポン」とは

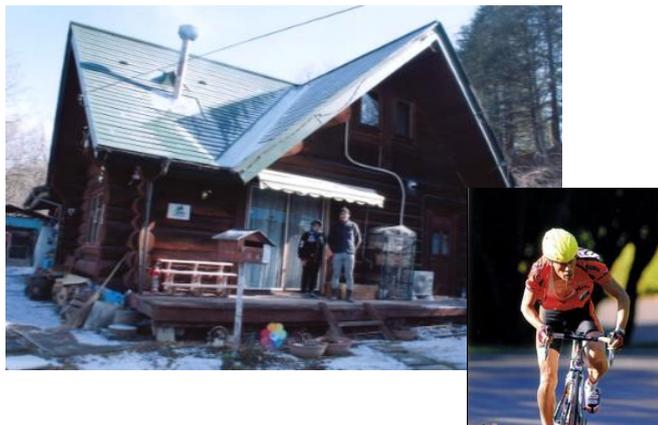
都市と農山漁村の間の“人・もの・情報”の往来（おうらい）を盛んにすることで、日本全国が元気（All right）になることをめざす国民運動「都市と農山漁村の共生・対流」のキャンペーンネームです

# オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

「コミちゃんファーム」代表、農家民宿「ファームインコミネ」オーナー

こみね えつお  
小峰 悦雄さん（67才）

まつもとし  
（長野県松本市）



## ■受賞者と農山漁村との関わり

【移住】27年

【地域での実践活動】27年

## ■写真の説明

- ・（写真上）農家民宿「ファームインコミネ」前のご夫婦  
右下はマスターズ自転車競技に出場
- ・（写真左下）コミちゃんファームのワイン用ブドウ畑
- ・（写真右下）自宅近くの高台から望む北アルプス

■連絡先 〒399-7411 長野県松本市中川 7472-イ  
☎ 0263-64-2607

## ■受賞の内容

小峰夫妻は1992年に現在地に移るまでは共に東京八王子市職員だった。自然が好きだった二人は仕事の傍ら、休みには小峰さんは国立公園尾瀬で妻は高尾山でボランティアのパークレンジャーをしていた。また、独自に自分たち主催で親子自然観察会を開き、開発されつつある多摩丘陵の自然保護を訴えていた。

一方、食の安全にもこだわり生活協同組合に入り様々な活動をしていた。また、子供をより自然の中で生活させたいと長男を長野県小谷村に山村留学させていた。そんな生活は充実していたように思えるが、いまひとつ本当に自分が追い求めるライフスタイルとは違う気がしていた。食にしる農業にしる自然にしるもっと地に足をつけて実践の中から物事を考える人生を送りたいと移住を決意した。

新規就農は本当に大変だった。住む家から納屋、農機具の取得、栽培技術に加え、地域との関りや小学生と中学生の子供の子育ても加わり、死に物狂いで動き回った。退職金ばかりに頼るわけにはいかず、農業の合間には造り酒屋や山仕事、引っ越し、卵の運送などあらゆる仕事をしたが、よく身体がもったものだ和我ながら感心した。



安定した公務員を辞めて40歳から新規就農。夫婦で、ワインブドウの栽培と稲作、野菜などを作る。町会長や氏子総代などもこなし、地域にとけ込む努力と趣味のマラソンや自転車の大会の開催提案などアイデアを提起し続けている。人生100年時代のお手本として高く評価された。

# オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

愛する限界集落に新しい風を入れている熊野市集落支援員

ほかぞの じゅんいち  
**外園 淳一さん (35才)**

くまのし  
**(三重県熊野市)**



## ■受賞の内容

1983年の東京生まれ東京育ち。大学卒業後、食品会社に5年間勤務。仕事・生活に悩み転職を考えているときに、制度として始まったばかりの「地域おこし協力隊」の募集を発見した。

大学時代に九州(熊本・大分)で地域活性化に携わる4年間のボランティア活動の経験・スキルを活かせると考え、また妻が三重県出身だったこともあり応募した。なにより両親からの「学生時代、地域活動に励んでいた頃のお前は明るく楽しそうだったぞ!」という言葉に背中を押された。2011年に「三重県熊野市移地域おこし協力隊」に採用され、熊野市紀和町西山地区という中山間地域人口200人弱、高齢化率74%の中山間地域に妻と共に移住し、活動を開始した。その後、3年間の任期全う後に一旦地域を離れるも、この地域が好き過ぎて2016年「熊野市集落支援員」として同地域に再移住し、現在に至る。

再移住の直前に脳腫瘍を患い、手術を4回受ける。移住先の地域の方々に温かい声援と励ましの声を頂き後遺症なく現場に復帰。子供2人にも恵まれて家族4人で楽しく・明るく生活を送っている。2011年から取り組んでいる「週末・国際ワークキャンプ」は、「集落の維持・活性化活動が高齢化により住民の力だけでは限界が来ている。若い人の助けを借りることが出来れば」という声を聞き、過去に自分が所属・活動をしていたNPO法人NICE(新宿)と連携すれば、都市部の若者を1泊2日で呼び込み地域作業の協働で行う「週末ワークキャンプ」が可能と実施した。

これまでの活動として、地域にある国指定の史跡「赤木城跡の整備」、地域のお盆前の草刈・清掃作業

## ■受賞者と農山漁村との関わり

【移住】6年

【地域での実践活動】8年

## ■写真の説明

- ・(写真上) 作業終了後の集合写真(17年国際ワークキャンプ)
- ・(写真右下) 国指定「赤木城址」での作業の様子

■連絡先 〒519-5403 三重県熊野市紀和町長尾 1092-4  
☎ 090-5406-7170

に参加、地域内のイベント(桜祭り・春祭り等)の支援、地域住民と都市部の若者たちの交流会(主に地元ジビエでBBQ)等を行っている。私は、地域と若者達を繋ぐコーディネーターとして、企画の立案、地元調整、メディア対応、運営リーダーとして活動をしている。国内の若者達は主に、20~30代。男女比は半々程度。これまで、東京・三重・愛知・滋賀・大阪・兵庫・奈良・神奈川・岐阜・京都・福岡から参加をしている。また、ロシア・イタリア・中国・フランス・香港・ベトナム・メキシコ・スペインから参加があり、日本人は社会人の参加が多い。12回開催を行い、最高で6回参加する人や2~5回など複数回訪れるリピーターも増えてきている。現在は開催する度に全国各地から10名以上の参加者が集まり、地域の公民館で自炊しながら寝泊まりしている。熊野で一番の高齢化率74%の限界集落が、東紀州で国際交流まで出来る最先端の地域に成長して一番の交流人口が生まれている場所となった。また参加者と地域住民が手紙のやりとりをしたり、電話で連絡を取り合ったりしている。結婚や出産の報告等があれば、地域の方も嬉しそうに私に報告してくれている。これも地域の方々の、都市部の若者を受け入れる広い心と、外国人も受け入れてしまう積極性によってもたらされたものだと考えている。将来、参加者の中からこの地域に移住を検討してくれる人が出てくれればと思っている。



東京生まれ東京育ちの若者が地域にほれ込み、家族と移住。高齢化の限界集落と都市や世界とを結びコーディネーターとして自分の経験を活かして、生き生きと暮らすライフスタイルに限界集落打破の可能性が灯ると高く評価された。

# オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

若手移住漁師、漁船・遊漁船「海来」船長

まつお たくや  
松尾 拓哉さん (28才)

むろとし  
(高知県室戸市)



## ■受賞者と農山漁村との関わり

【移住】3年

【地域での実践活動】3年

## ■写真の説明

- ・(写真上) 佐喜浜自宅での家族写真
- ・(写真左下) 室戸のイベントで行った四国最大のふれあい移動水族館
- ・(写真右下) 室戸ジオパークセンターで行われた夏休み1日先生

■連絡先 〒781-7220 高知県室戸市佐喜浜町 1289-2

☎ 0887-27-3990

## ■受賞の内容

大阪出身。幼いころから室戸の海、漁師に魅せられ、室戸に「漁師の水族館」を作りたいとの夢をもち、関東、近畿の水族館で飼育員として、サメや深海生物等の飼育、移動水族館当の運営に携わった後、室戸市に移住。漁師を生業にしながら、身近な海の生き物をテーマにした体験学習プログラムなどを地域の学校やイベントなどで実施している。様々な企業や全国の水族館の協力を得て、新たな資源開発を行い持続可能な漁業を目指している。

松尾さんは、幼いころから生物を飼育するのが好きでフィールドに行くのが好きだった。室戸市には、小学校3年生の頃から縁があり、学校が長期休みになると電車とバスを乗り継ぎ大阪から一人で室戸まで行き、知り合いの民宿の手伝いをしながら定置網で採れた魚を譲ってもらったり、自ら海に潜り魚を採取し水槽で飼育したりしていた。子供の頃、魚の種類が多い事、美味しい魚が多い事、珍しい生物、特に深海の生物がたくさん生息していることに気付いた。

どうして室戸は様々な種類の生物を見ることができるのか調べると、室戸は世界ジオパークにも登録されている地形で陸から深海が近く海洋深層水があり、沖には黒潮が流れる素晴らしい環境にあり、その環境を利用した定置網などの漁業がある地域だとい



うことを知った。そのころから将来、室戸に住んで漁師になりたい、水族館をつくりたいと思い、茨城県の大洗水族館に就職、さらに和歌山県の水族館に転職し、和歌山と徳島を行き来しながら水族館を作るための技術を学んだ。室戸市には2016年4月に漁業研修制度を利用し家族で移住した。子どもの頃からお世話になっている漁師の師匠から漁業やホエールウォッチングの仕事を学んだ。師匠は日本で2番目にホエールウォッチングをはじめた方で、後継ぎになるために弟子入りをした。ほかにも室戸ジオパークガイドの会にも加入してジオガイドの活動をおこなったり、地元の消防団をはじめ様々な活動に参加している。また、地元NPOにも参加し、地元では食べられていなかった海洋生物を使った新たな商品開発やイベントなどでジオピザなどの商品販売行っている。今まで難しかったキンメダイの全国への活魚輸送や商品価値の無かった深海生物の食品化などの海洋資源に付加価値をつけて、室戸ブランドとして発信してできるよう取り組んでいる。この4月からは自分の船を持ち夫婦で体験漁業や海から見るジオパークを実施していく。



自分の夢を叶えるために、熱心な調査研究、行動力により一步一步着実に計画を進め、漁師の水族館として活動し、さらに持続可能な漁業を目指す姿は、今後も大いに期待したいと高く評価された。

# オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

穎娃のお福分け 旅と宿の女将

(鹿児島県)

せがわ ちか  
瀬川 知香さん (32才)

みなみきゆうしゅうし  
南九州市



## ■受賞者と農山漁村との関わり

【移住後】3.5年

【地域での実践活動】3.5年

## ■写真の説明

- ・(写真上) 瀬川知香さん
- ・(写真左下) 福のや前で地域の人たちと
- ・(写真右下) 畑で、にんじんの収穫

「穎娃のお福分け」で販売も

■連絡先 〒891-0701 鹿児島県南九州市穎娃町郡 1554  
☎ 080-6409-1850

## ■受賞の内容

昨年結婚した主人は農業、私は宿泊業。築70年の古民家を住民と共に改修し、一棟貸しの宿泊業「暮らしの宿 福のや、」を営業している。

瀬川氏は、高校時代から観光や旅行の分野に強い関心を持ち、旅行業界を志して、大阪の旅行系専門学校に進学した。大阪の旅行代理店に新卒で総合職として入社。企画・手配・添乗・営業と様々な部署で経験を積み、3年後、着地型観光に強く関心を持ち地域住民と地域のための取り組みたいと考え、高知県安芸市の観光協会に1ターン転職する。3年半ほど受入体制の充実や県内外からの観光客集客のため、旅行会社などへの営業を担当。着地型観光に一生携わるために地元の鹿児島に帰る決意してUターン。いちき串木野市で観光案内所のNPO法人化や旅行業登録を担当し、まちの旅行社としてバスツアーや体験プログラムの企画販売に取り組んだ。現在活動をしている穎娃町(えいちょう)のまちおこしメンバーと出会い「地域のための観光」と考え、穎娃町の基幹産業である農業を発展させるために畑に観光客を呼び込む動きや空家や空き店舗が増える商店街に新たな人の流れを創出するため観光客誘致に取組む姿に強く共鳴し、

南九州市穎娃町に移住した。

穎娃町は、母の故郷で子どもの頃から慣れ親しんでいた。移住して1年後、日常の暮らしにこそまちの魅力があると考え、「暮らしの宿福のや、」をオープンした。

宿滞在者や日帰り客のため、「小さな旅」と題し、穎娃の農風景へと案内する「畑旅(はたたび)」や海岸散歩、星空さんぽなどのプログラムの企画販売も行っている。

一棟貸しタイプの宿「暮らしの宿福のや、」は、築70年の古民家で地域住民とともに改修した。

「畑旅(はたたび)」は、農業と観光を掛け合わせた取り組み。農家さんと一緒に畑を巡り、風景を楽しみながら収穫体験をするツアーである。トウモロコシの苗植えやポップコーンづくり、畑でのランチやお茶会など、通年通して楽しめる内容。冬には南九州市名物・大根やぐらに登るツアーもある。畑で食べるトウモロコシは格別である。特別なことはしない。いつもの暮らしを“おすそ分け”するというのがテーマである。旅、宿、農、食をつないで産業を目指し、地域の人々と協力しながら穎娃町ならではの仕事づくり豊かな自然に囲まれながらの田舎暮らしを楽しんでいる。



畑に観光客を呼び込む「畑旅」の体験プログラム企画・実施、まちづくり研修会や地元農産物を「食」するイベントなど、地域資源を活用した地域活性に取り組むライフスタイルは若者や女性の活躍のモデルとして推奨すべきものと高く評価された。